

令和4年度 豊後大野市総合教育会議 議事要録

1 開催日時

令和5年2月24日（金） 午後3時00分開会 午後5時00分閉会

2 開催場所

豊後大野市役所（2階）中央公民館 視聴覚室

3 出席者

- 市長 川野 文敏
- 副市長 清水 豊
- 教育長 下田 博
- 教育委員（全員出席）
 - 2番委員 羽田野 光江（教育長職務代理者）
 - 3番委員 江嶋 真朋子
 - 4番委員 渡部 稔
 - 1番委員 三浦 絵里奈

4 事務局等の出席者

市長部局（3名出席）

総務企画統括理事	玉ノ井 浩司
総務課長	小野 律雄
総務課総務係長	矢野 慎一郎

教育委員会事務局（8名出席）

教育次長	後藤 樹代文
学校教育課長	中城 美加
学校教育課参事兼給食調理場長	赤嶺 真一
学校教育課教育監	日浦 賢一
学校教育課課長補佐兼教育総務係長	衛藤 幸司
社会教育課長兼図書館長	岡部 司
社会教育課参事兼資料館長	高野 弘之
社会教育課課長補佐兼スポーツ推進係長	石川 孝義

5 会議及び議事の概要

(司会)

矢野総務係長 資料（データ）の確認（今年度からペーパーレス化）

小野総務課長 <開会あいさつ>

川野市長 <市長あいさつ>

～略～

新型コロナウイルスが流行りだして3年が経過した。

最近では第8波も落ち着きはじめ、感染者も減少傾向になり、来月からはマスクの着用も個人の判断に委ねられ、卒業式でもマスクを外してよいと報道で発表された。

5月からはインフルエンザと同じ5類に引き下げ、コロナ対応も大きな転換期を迎え、いよいよアフターコロナの時代となる。

活力ある地域づくりに積極的に取り組んでいきたい。

本日の総合教育会議では、テーマを絞って、提案があると聞いている。

建設的な意見交換を行い意義のある会議にしたい。

清水副市長 <副市長あいさつ>

総合教育会議に副市長が出ることができるケースは、なかなかないので、本日は、教育委員のみなさまの意見をお聞きする非常によい機会だと考えている。

是非施策に活かしていきたい。

下田教育長 <教育長あいさつ>

教育委員会が活動しやすい環境づくりをしていただいで感謝している。

レイマンコントロールを基本に市民から多くの意見を幅広く聴く体制が出来ており、定例の教育委員会の中でも色々なご意見をいただくことができている、教育委員会事務局もたいへん助かっている。

また、方針に対しても意見を聴くことができているので、委員の選出から方針の理解まで教育委員会の運営に市をあげて取り組んでいただいでいることに改めて感謝を申し上げる。

特に今日も教育委員が使用している「GONちゃん（タブレット）」は、この1年間子どもたちが活用している姿を教育委員に見ていただくことが多くあったが、すごく進んだ取組だと感じている。

子どもたちのタブレットの扱い方については注意が必要だが、通信の環境整備については全ての学校に充実した環境を整えていただいた。

いよいよ、次年度は家庭との連携を行い、定例会の中で子育て支援についてたくさんの意見を伝えていきたい。

(司会)

矢野総務係長 <自己紹介> 名簿順に自己紹介

小野総務課長 <資料説明> ~豊後大野市教育大綱(案)について~

第2次豊後大野市総合計画(後期基本計画)及び第4次豊後大野市総合教育計画との整合性を図り、重点的に講ずるべき施策について策定した。

本大綱の実施に関する具体的な方針等については教育委員会が定める学校教育基本方針及び社会教育基本方針を基に取組を推進する。

対象期間については、令和5年度から令和6年度までの2年間。

この間、教育を取り巻く状況の変化や施策の進捗状況等を踏まえ、必要に応じて見直すこととする。

基本目標については、第2次豊後大野市総合計画後期基本計画を総合的に推進するための3つの政策目標に準じて、教育行政においても施策を推進する。

本大綱については、総合教育会議において、皆様と協議し策定することとなっているので、協議をお願いしたい。

矢野総務係長 教育大綱については、地方公共団体の長が、地方公共団体における教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策について、地域の実情に応じてその目標や施策の根本となる方針を定めるものとなっている。

教育委員のみなさんの方からご意見があればいただきたい。

(意見なし)

(司会)

矢野総務係長 特にないようなので、以上の内容で策定に移らせていただく。

(同意)

令和4年度及び令和5年度教育行政の取組について、教育委員会より説明を求める。

中城学校教育課長 学校教育の取組について

基本方針「地域とともにあるへプタゴン教育で主体的な自己実現を目指して」に基づき、子どもの意見や考えを大切にしながら子どもたちが主体的に自己実現を目指していくため、以下7つの取組を進めていく。

- 1つ目 キャリア教育の推進
- 2つ目 小中一貫教育・校種間連携の推進
- 3つ目 コミュニティ・スクールの充実
- 4つ目 確かな学力の育成
- 5つ目 豊かな心の醸成と健康な体の育成

- 6つ目 郷土学の推進
- 7つ目 学校環境の充実

岡部社会教育課長 社会教育の取組について

社会教育課の活動では、学校教育課と共に活動する場面もある。

基本理念「郷土を愛し、つどい、つながり、ふれあい、学び合い、次世代へ未来を拓く、豊後大野の人づくり」に基づき、以下7つの取組を進めていく。

- 1つ目 生涯学習の推進
- 2つ目 次代を担う青少年の健全育成
- 3つ目 特色ある公民館づくり
- 4つ目 図書館利用の推進

高野資料館長 5つ目 資料館の展示・収蔵、館外活動の充実と文化財保護の推進

岡部社会教育課長 6つ目 誰もが楽しめるスポーツの振興

7つ目 人権・部落差別解消教育の推進

矢野総務係長 学校教育課及び社会教育課から令和4年度及び令和5年度の教育行政の取組について、ご質問、ご意見等があればいただきたい。

(意見等なし)

(司会)

矢野総務係長 ないようなので、「教育行政に関する意見交換」に移らせていただく。
小野総務課長が進行させていただきます。

小野総務課長 「教育行政に対する意見交換」について、昨年度もフリートーク形式でおこない、大変活発な意見交換ができた。今年度も同様の形式で行いたい。

まず、3項目ほど事務局から提案させていただき、その後、意見交換としたい。

- ①スクールバスとコミュニティバスの混乗について
- ②給食費の無償化について
- ③部活動の地域移行について

下田教育長 提案いただいた3項目については、子育て支援全般にあたって教育委員からのフリートーキングで扱わせていただくので、ご了承いただきたい。

教育委員会の中で子育て支援について色々な意見をいただいている。

本日の会議にあたり、市が子育て支援にどれだけお金を使いながら進めているのかを分かりやすく知っていただくため、教育委員会で色々な課の事業をまとめてみた。

資料をご覧くださいと、人件費を除く事業費の約3割が子育て支援に充てられている

ことが分かる。

この3割という割合が他自治体と比べてどうなのかはさておき、かなりの金額を使って子育て支援をおこなっている。

0歳児のこんにちは赤ちゃん訪問から、18歳の奨学金返還補助事業までの主だったものを記載している。

この中で、気になったところ、今まで教育委員会の中で取り上げられてきたものがあるので、それを市長とお話しさせていただきたいと思うが、その進め方でよろしいか？

川野市長

了承

議事録の取り方について提案。

一字一句全部を議事録になると言い間違い等を気にして、活発な意見交換ができない。会議要録の形での記録とするので思い切った発言をお願いしたい。

三浦教育委員

妊産婦等に対してのタクシーチケット配布の件

自分は市外から転入した者であるが、転入してきた時に良かったと感じた点が「子ども医療の助成」だった。

これまでの、償還払い形式が改善され、現物支給形式になったので、大変助かった。

そこで、不妊治療の助成についても改善を求めたい。

市内には産婦人科がなく、受診は市外まで行かなければならない。

移住していて自家用車がないから困ったという話を移住者から聞いた。

他にも似た話を聞いている。

産婦人科を作ったり、医師を増やすことは難しいと認識しているが、代替として、臨月のお母さんたちにタクシーチケットを配布する等はできないか？

川野市長

子育て支援は、私が立候補した時の3本柱の1つだったので「子ども医療の償還払いの現物支給」「保育料の見直し」等に力をいれてきた。

中でも、国が消費税増税の際に教育保育無償化を宣言したが、本市はそれを前倒しで実施した。

第1子については自己負担をお願いしているが、国の基準の6割まで下げており、第2子以降は無償とする等、子育て支援の事業に取り組んでいる。

また、「子育て世代包括支援センターきらきら」を設立し、保育士、臨床心理士、専門職を配置し、ワンストップの相談体制を設けている。

また、緒方の病児・病後児保育等の子育て支援についても重点的に整備してきた。

タクシーチケットは、良い案だと思うが、妊婦さんの中には、本人が望んで市外の産婦人科を選択する場合も多くあると聞いている。

そのような状況の中で、果たして、この方法は効果がどのくらいあるのか検証させてもらいたい。

- 江嶋教育委員 **スクールバスとコミュニティバス混乗の件**
スクールバスの運行事業に4,500万円もかけられていることに感謝している。
しかし、一部では、スクールバスの利用条件である通学距離を満たさない家庭やバスが通っていない地域については親が送迎しているという状況にある。
コミュニティバスとスクールバスを混乗運行できないか？
公共交通を利用することで、公共マナーや社会性、自主性を学べる良い機会にもなると考えている。
- 川野市長 本市では、国庫の補助基準に基づき、通学距離を利用条件として決定しているが、本市特有の実情を鑑みると、どうなのかと疑問はある。
- 下田教育長 昔は、体力を付けるという意味でも歩行での通学が推奨されていた。
しかし、現代は状況が変わっており、集団登校ができないところについては通学路の安全性・事件性の回避を踏まえてスクールバスの利用可否を決めたいと、市教委としては考えている。
- 衛藤課長補佐 過疎化が進み、1人で歩く危険性のあるエリアではスクールバスを利用させて欲しいという保護者からの要望がある。
東小学校区の入北線についてスクールバスを運行していたが、4km・6kmの対象者自体がいなくなったことで令和5年度からスクールバスの運行ができなくなった。
4kmにわずかに満たないが低学年ではないため、特例を与えて乗せることができない。
そこで、まちづくり推進課と協議し、コミュニティバスの運行エリアを変更することで、カバーできるようになった。
これにより、一般の方も料金を支払えば利用できるようになり、優先されるべき児童の安全確保ができるようになったという利点がある。
ただし、一方で委託業者にとっては雇用の問題から前述のような全部の受注には応えきれないという課題を抱えている。
そこで、スクールバスとコミュニティバスを混乗することによって便数の統合ができ、バスもその1台での運行が可能になるため、実現性が高い。
料金の問題は別として、そういった取組を進めることは良いことだと考えている。
- 川野市長 公共交通の会議でもコミュニティバスの利用者が減ってきているという問題があり、今回のコロナでさらに落ち込んでいる状況でコミュニティバス事業も困っている。
料金はまた別の問題だが、これからは、コミュニティバスとスクールバスを効率よく混乗で回せるようなコースを考えていくことで、利便性を向上し利用者を確保、また安全を確保していくこととしたい。
- 清水副市長 公共交通の会議の中でも、バスの運転手の確保が非常に厳しいという課題がある。

運転手は、長時間バスの運行に関わらないといけない。
特にスクールバスの場合、登下校時までの待機が長時間となることも、雇用の確保が厳しいという原因と言える。
混乗を進めることでこの点を解消できればと考えている。

川野市長 検討課題にさせていただく。
児童等の通学の安全性確保を視野に入れながら、またバスの運転手の確保も考えながら、いい方向を探っていきたい。

渡部教育委員 **スポーツクラブ加入者のための送迎支援バスの運行の件**
スポーツクラブへの加入割合は、令和4年度、豊後大野市は約40%と県内3番。
小学生が中学校教員の指導を受けることができる環境に恵まれている。
しかし、一方で小学生の保護者は子供を遠い場所まで送迎する必要があり、特に、水・土・日曜日の送迎負担が大きい。
保護者の負担軽減のためにも送迎支援バスの運行について検討をお願いしたい。

下田教育長 先程のコミュニティバスと同様に効率的な取組ができればと考えている。
小中学校の部活動は、基本、会費がないのに対し、スポーツクラブは現在（実験時期でもあるので）、会費を徴収しているところもあるため、こちらの収入を送迎支援バスの運行の財源として活用するという方法もあるのではないかと考えている。
また、中学校については、通学距離が6km以上の自転車通学者に対し、在学期間を通じて1回に限り、自転車購入補助をおこなっている。
補助金を活用していただくことで自転車による移動も手段のひとつになりうると考えている。
地域移行によって、今後もこのような課題が出てくると思うので、課題整理をして市教委で話し合っていきたい。

川野市長 （文部科学省から）言われてすぐできるような課題ではないので、部活動に行く手段、経費の支援を含め、どのような課題があり、バスも含めどんな支援策があるのか、もう少し詰めて研究していただきたい。

下田教育長 子育ての一環となることなので財政面での支援も是非お願いしたい。

羽田野教育委員 **給食費の無償化の件**
来年度、給食費が上がるがその分、市が負担してくれることとなっている。
たいへんありがたいお話だが、県内では豊後高田市が平成30年度から給食費の無償化をおこなっており、令和5年度からは宇佐市と姫島村が無償化になると聞いている。
是非、本市も給食費無償化の検討をしていただきたい。

川野市長 コロナ禍においては、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金という国の補助金があったのでこの間は無償化ができていた。
交付金がなくなり、現在、別の補助金等を探しているところ。
物価高騰により値上げを余儀なくされる中で、令和 5 年度からいっぺんに給食費を元に戻すと負担が急増することが明らかなので、値上げ分だけは市単独でおこないたいと考えている。
ただ、無償化については、市単独では難しい。
給食費に係る費用は経常経費となるため、財源確保のためには、別の事業の予算を削る必要がある。
財源があれば、是非やりたいので、引き続き活用できる財源（国庫等補助事業）を探していく。

清水副市長 高齢者も支えていかないといけない状況にあって一般財源で全て持つというのは、かなりリスクが高い。
保護者にとっては魅力的な事業であるが、長期的な市の財政運営のためには、リスク回避はやむを得ない。
無償化も含め、全国的に国が一律して補助する分野はその補助金でまかなうべき。

羽田野教育委員 **教育委員の報酬の件**
他市と比較すると、低く、現職で仕事を持つ方は仕事を休んで業務を行う場合があるので、今後、教育委員になっていただく方のためにも見直しを検討していただきたい。

川野市長 報酬の見直しについては、教育委員だけではなく、特別職全員にかかることなので莫大な費用が必要となるので、報酬改定は今後の課題としたい。

羽田野教育委員 民間会社の賃上げが多数行われているので、是非ともご検討していただきたい。

三浦教育委員 **キャリア教育の件**
豊後大野市はヘプタゴン教育で、キャリア教育を推進している。
この中で、中学校から高校へのつなぎを強化できればと思っているが、保護者の視点から全体を通してみると、情報発信が物足りない（取組が見えにくい）と感じている。
例えば、cocomio は豊かな人材が整っているので、こちらの活用を進めて仕組み作りをしてもらいたい。
イメージとしては、「はぐくみ先生」の教育が理想。
cocomio に携わる方をはぐくみ先生として招き、子どもたちがもっと学べるようにしていただきたい。

学校教育課長 全ての教科がつながっている。
中学生の職場体験、小学生のはぐくみ先生の枠を広げていく努力（登録者数増）をしているところ。

下田教育長 中学校と総合高校とがタイアップ（合同）で市内企業紹介のビデオを作成したが、実際、外部に対しては発信が足りていないと思い反省している。

川野市長 子どもが将来、何がしたいか考えるきっかけを作ることが重要。
子ども1人1人の興味分野、刺激やきっかけが異なるため、分野を広げ回数を増やしていただきたい。

学校教育課長 同時に自分たちの地域・身近な大人がどんな仕事をしているのかを紹介し、それについて考えることも重要。引き続き、そのための環境作りをしていきたい。

三浦教育委員 キャリア教育で学んだ内容を将来にどう活用するのか、落としどころがあったら良いのではないかと思う。
例えば、ジオパークなどで内容を学んだ後に、将来にどのように活用するのか、その実用例を紹介するのも良いのではと思う。

江嶋教育委員 **ZOOM 利用による情報共有の件**
子どもが図書部長となり、図書室の使い方について悩んでいる時期があった。
他の中学校ではどうしているのかと疑問に感じた時に他校の生徒会同士が ZOOM を利用して情報共有し、横のつながりができる環境ができればよいのではないかと思った。
中学生同士が同じ目線、同じ悩みをお互いに共有しあえたらよいのではないか。

川野市長 現在、少子化により1クラスの人数が少なくなっていることが課題となっている。
他校の子どもたちと意見交換できる機会をつくる必要がある。
そのための環境を整えているので、ぜひ積極的に取り組んでもらいたい。

<意見交換終了>

小野総務課長 他に意見がないようなので、以上で意見交換を終了する。
皆さん、ありがとうございました。

（司会）

矢野総務係長 小野総務課長より、閉会のあいさつ

小野総務課長 <閉会のあいさつ> 16：40 終了

(補足)

レイマン・コントロール (市民による意思決定)

住民が専門的な行政官で構成される事務局を指揮監督する。

政治的中立、専門家への一任により生じる意見の偏りを防止するため、大局的・基本的な方針を地域住民の意思により決定し、具体的な事務や運営については専門のもの（行政）に委ねる。

実際に導入されているものとして教育委員会があげられる。

地域住民の意思を教育政策に反映させるために一般住民から選出された素人（行政教育上）により構成される委員会が教育行政を統轄する。

併せて、そこで生じる障害・欠陥をカバーするために教育や教育行政の専門家として教育長が補佐する。